

2022 年度実施概要

学校名

芝山町立芝山中学校

採択活動名

「海がなくてもできること」～様々な意見や考えがある中で、自分で考え選択し行動できる生徒の育成～

実施単元 ※実施した単元の数に応じて記載してください

単元名	学年	教科
1. 動物のからだのつくりとはたらき	2	理科
2. 自然体験学習について ～SDG s を視点において～	2	総合的な学習の時間

取り組みの概要

1. 動物のからだのつくりとはたらき

消化と吸収の単元において、炭水化物、タンパク質、脂肪の消化・吸収の際にプラスチックが体内に入った場合の状況を考えさせた。殆どの生徒は、体内に入ることについて否定的であった。家庭科で行った授業も踏まえ、意図的にプラスチックを体内に取り込まなくても食物から取り込む可能性があることについて説明し、海洋プラスチックごみの現状の調査と、実際の海岸の砂の中に含まれるプラスチックごみ（マイクロプラスチック）を採取した。実際に海岸に行きプラスチックごみを採取することを想定し、生徒自身が採取方法について考え道具の制作を行った。校外学習では、生徒自身が考えたプラスチックごみの採取方法を実践し持ち帰った。後日、採取方法の考案から実践、考察等についてプレゼンテーションを行う。

1 時間目 炭水化物、タンパク質、脂肪の消化・吸収および、プラスチックの消化吸収を考える。

2 時間目 プラスチックごみを意図的に食べなくても、間接的に食べてしまう状況について調査活動を行い、人間を含めた動物や自然に与える影響について考察する。

3～7 時間目 プラスチックごみ、特にマイクロプラスチックの回収方法を生徒自身が考案する。

8～10 時間目 海岸への校外学習を実施し、プラスチックごみの採取方法を実践し持ち帰る。

2. 自然体験学習について ～SDG s を視点において～

現在の2年生は、1年からSDG sを主眼に置いた活動を行っており、調べ学習はもとより校外学習ではクルックフィールドズの食と農業、自然についてのプログラムを体験している。更に、学習を深めるため、自然環境保全とプラスチックごみについての見識を深めることを目的としたリモート授業を行った。

学習したことを共有・表現する方法として、始めに班や班同士の話し合い活動をする時間を確保する。そうすることで、自分だけの意見や考えに囚われない多様性に富んだ考え方をもつことができる。更に、プレゼンテーションをすることで、自分の考えを論理的にまとめあげることができる。

1 時間目 筑波大学 山本容子准教授によるリモート授業を実施する。

2～5 時間目 この間の、プラスチックごみ採取の学習についてプレゼンテーションの準備を行う。

6～7 時間目 プレゼンテーションを行う。

8～9 時間目 学習した内容を日常生活に活かせるように意見交換を行う。



51 マイクロプラスチックの採取方法の考案1



52 マイクロプラスチックの採取方法の考案2



53 リモート授業の様子



54 校外学習でのマイクロプラスチックの採取